

## 宍道湖で採取された柱状試料S1より産出する底生有孔虫化石群

高田裕行\*1 山田和芳\*1 香月興太\*2 山口啓子\*3 宮本 康 中山大介\*1 Hugo Coops\*4

\*1： 島根大学汽水域研究センター

\*2： Division of Earth environmental System, Pusan National University

\*3： 島根大学生物資源科学部

\*4： Institute for Inland Water Management and Waste Water Treatment ( RIZA ) ,Netherlands

LAGUNA (汽水域研究) Vol.14,1-7(2007)

キーワード：宍道湖、底生有孔虫化石、20世紀における組成変化

20世紀の宍道湖 - 中海水系における環境変遷のメカニズムを理解するために、宍道湖湖心で柱状試料を採取し、年代測定と底生有孔虫化石群の解析を行った。その結果、20世紀の宍道湖では特定の種 (*Haplophragmoides canariensis* ・ *Ammonia beccarii* forma 1 ) が多産したこと、そして優占種が前者か

ら後者へと変化したことが明らかになった。この傾向は、宍道湖と大橋川を対象に行われた先行研究の結果と符合した。これらの点は、20世紀の宍道湖で生じた有孔虫群集の変化が、宍道湖だけではなく大橋川で生じた環境変動の影響も受けていることを示唆している。